ピッツバーグのご紹介・ピッツバーグ市とピッツバーグ大学図書館について

キャロリン・ジェーン・ワグーラ*

皆様おはようございます。私はキャロリン・ワグーラと申します。ピッツバーグ大学の博士後期課程学生で中世日本美術史を研究しております。今年の 5 月に修士論文を仕上げたばかりなので美術史の世界の新人ですが、今日の発表を通してピッツバーグ大学とピッツバーグ大学の図書館について紹介したいと思います。まずは自己紹介から始めます。日本で生まれ、小学 6 年生までは日本の学校へ通い、幼い頃から日本語を勉強しました。大学はニューヨーク市のセント・ジョンズ大学へ通い、高名な美術館がとても多い街なので、メトロポリタン美術館や近代美術館、MOMA へ何度も行って、日本美術史への興味が深まり、大学院で日本美術史を研究することを決意しました。 修士論文は東京国立博物館が所蔵する 14 世紀に描かれた「不動利益縁起絵巻」について書き、絵巻物に描かれている陰陽道の儀式について分析しました。

しかし現在私は仏教美術史を中心に研究しており、繍仏に興味があります。繍仏とは、名前の通り、刺繍で表した仏像であり、女性によって制作された作品が特に多いのです。古代の例は聖徳太子の死後に妃の橘大郎女が制作した天寿国繍帳、または中将姫が当麻曼荼羅を織り上げられたとの伝承などもあり、繍仏は女性の仏教信仰心についてうかがえる作品です。また中世の繍仏は本堂に飾る掛け物よりも追善供養として亡き人を供養するために制作されました。特に鎌倉時代からの繍仏は色糸ではなく、亡き人、または発願者の髪を用いられています。例えば北条政子が源頼朝の菩提を願うため、繍法華曼荼羅の種子を自分の髪で縫ったと吾妻鏡に記してあります。この例のように繍仏は個人的な作品なので、繍仏の研究を通して仏教を支えた様々な女性の存在を知ることができると私は思います。

大学院生として私は研究だけでなくティーチングアシスタントとして学部生に美術史を教えることもあります。ピッツバーグ大学では芸術や美術史のコースは必修科目なので、「世界の美術」や「アジアの美術」を受ける多数の学生の専攻分野は美術史ではありません。美術館に行ったことがない、また海外旅行をしたことがない学生もいるので国際文化への関心を深めることを目的に指導してきました。大学ギャラリーまたは付近の美術館へ直接行き、学生が美術に触れる機会を提供しています。ピッツバーグ大学の美術図書館には 100 点余りの模写絵巻物があり、大学ギャラリーとスペシャルコレクションライブラリーには浮世絵の作品もありますが、屏風・彫刻・工芸品などはとても少なく、ピッツバーグで日本美術を見る機会があまり多くないです。その為直接目で見える作品が少なく、インターネットでの日本美術品の画像は教育上に重要となります。

次にピッツバーグとピッツバーグ大学についてご紹介します。ピッツバーグ市はペンシルバニア州南西部に位置し、ペンシルバニア州で 2 番目に大きい都市です。ピッツバーグといえば大富豪のアンドリュー・カーネギー、ヘンリー・クレイ・フリック、アンドリュー・メロンなど が高収益の会社を創業した都市であり、アンディ・ウォーホルの出生地としても有名です。ピッツバーグの主要な美術館は三つあります。

第一にアンドリュー・カーネギーが「将来の大芸術家」の作品を展示する為に 1895 年に設立したカーネギー美術館であり、アメリカ内でおそらく初の現代美術館です。今でも Carnegie International というビエンナーレが開かれて最近の展示会には東京に勤めている建築家、Tezuka Architects　のインスタレーションで富士幼稚園の円形の屋根を表しています。このように現代の日本建築もピッツバーグで影響を受

* キャロリン・ジェーン・ワグーラ（ピッツバーグ大学博士課程）

けています。 第二にはアンディ・ウォーホル美術館があり、ウォーホルによる絵画、彫刻、版画や写真などを 8,000 点余り集めています。2014 年に東京の森美術館でアンディ・ウォーホル展「永遠の 15 分」がありました。その時にピッツバーグのウォーホル美術館が主催者として日本と直接交流しています。第三には Frick Art & Historical Center があります。実業家ヘンリー・クレイ・フリックの美術品はニューヨークのフリック・コレクションに所蔵されていますが、ピッツバーグのフリック美術館はフリックの娘、ヘレン・クレイ・フリックが集めた芸術、ルネサンス絵画や 18 世紀フランスの絵画や工芸品、などを中心に展示と所蔵しています。

ピッツバーグ大学は 1787 年に設立された州立大学であり、学生数は約 2 万 5 千人の学部生と 1 万人の大学院生もおり、5 つのキャンパスがあります。ピッツバーグ大学のメインキャンパスとカーネギー美術館はピッツバーグ市のオークランド地区の中心にあるので、授業中に学生と気楽に美術館を訪れる事ができます。この写真に映されているとても高いビルは「学びの聖堂」と呼ばれ、1926 年に建てられた 42 階建てのビルです。ここにはピッツバーグ大学の様々な人文学科の学部があります。美術史・建築史学部はヘレン・クレイ・フリックが 1965 年にピッツバーグ大学に寄贈した Frick Fine Arts Building にあり、1 階にはギャラリー、美術図書館と会館、2 階には美術史の教室があって、地下には芸術学部の絵画、彫刻工房があります。現在ピッツバーグ大学で中世日本美術史を研究している大学院生は 6 人もいます。美術史・建築史学部は毎年 6 人だけの大学院生の入学を認めるので相当多い人数です 。アメリカの大学院で中世日本を専門とする教授は少ないです。でもピッツバーグ大学の美術史学部に絵巻物を専門とする先生が勤めています。その訳で中世日本美術に興味を持つ多数の学生がピッツバーグに来ると思います。

最後にピッツバーグ大学の図書館のご案内をします。ピッツバーグ大学には 17 の図書館がありますが、私が研究として使う施設は東アジア図書館とフリック美術図書館です。この二つの図書館を紹介します。まず中枢となる書館は東アジア図書館があるヒルマン・ライブラリーです。5 階建てのヒルマン・ライブラリーの内に 20 点余りの特別コレクション、200 台のパソコン、1,500 人以上の学生が勉強できるスタディー・スペースがあります。

ヒルマンの 2 階に東アジア図書館があります。東アジア図書館は 1960 年に国家防衛教育法 (National Defense Education Act)によって開館されました。国家防衛教育法によって地域研究を促進するために政府がいくつかの大学を選び、東アジアの関心を高めるために援助をしました。ピッツバーグ大学はまず中国言語・地域センターとして設立され、中国資料を主に集めました。そして 1965 年から日本に関する資料を集め始め、2000 年に韓国コレクションが設立されました。ピッツバーグ東アジア図書館はアメリカで 14 番目に大きい東アジアコレクションであり、トライステート地域(Tri-state area、ペンシルバニア州・オハイオ州・ウェストバージニア州)では最も大きい東アジア資料館です。ピッツバーグ東アジア図書館では 13 万 5 千冊以上の日本資料・雑誌・マイクロフィルムと映像資料を所蔵し、五つの日本語データベースの利用が可能です。日本語資料で特に充実している分野は日本経済史、言語学、教育学、医学史、近代文学、日本映画の歴史と文化、中世美術史、中世宗教史です。現在は古典・現代宗教・現代のマスメディアに関する資料の収集活動も始めています。東アジア図書館の司書は日本・中国・韓国専門各 1 人で計 3 人います。アメリカの大部分の東アジア図書館には司書は一人しかいないので、3 人の方、また日本を専門とする司書が活動できてとても幸運だと思います。司書は毎年 9 月に新しい資料やデータベースについてピッツバーグ大学アジア研究センターで発表会を開き、日本美術史に関するゼミにも訪れて大学院生の学習サポートも行っています。

フリック美術図書館は先ほど名をあげた Frick Fine Arts Building に現在位置していますが、もとは「学びの聖堂」の 7 階に創設されて

いました。1927 年に美術史・建築史学科の創設と共に設立され、その時は西洋中世芸術とルネサンス美術を中心に収集していました。2000 年からは教職員と教科課程の中心が変更し、フリック美術図書館は近代と現代美術資料・建築資料をグローバルな視点から集中的に収集を始め、多種多様な年代と言語の資料を集めたコレクションであり、約 9 万冊の資料を所蔵しています。読書ルーム以外の図書は閉架式になっており、書庫に美術史大学院生用のカレルがあります。これが私の職場であり、資料を閲覧する場所・または学生の試験に成績をつける場所です。

ピッツバーグ大学図書館は日本と同様でスペースの問題を背負っています。しかし、その問題の理由は図書館の環境が、資料を貸し出しして研究する場所からスタディー・スペースとして学生が勉強する施設に変わっているからです。その訳で、去年から東アジア図書館の資料が少しずつ書庫に移され、今は 3 分の 1 の資料はもう移されて、出納しないと図書館内で閲覧できません。この写真のようにピッツバーグ大学の図書館は図書棚を無くしてたくさんの机を入れ、また、平日は 24 時間営業することによって学生が何時でも勉強できる環境を作っています。この例のように、デジタル化によってアメリカの大学図書館の立場は少しずつ変わっていることがわかると思います。

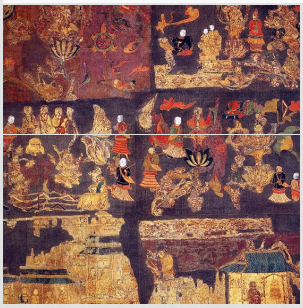
研究者として JAL2015 に参加出来た事をとても感謝しており、関係者の皆様にお礼を申し上げたいです。今回は様々の方、司書・アーカイビスト・学芸員・研究者との交流で日本美術資料の収集、保護と扱いについての知識を伸ばす事が出来ました。また、いくつかの国からの人々との交流によって日本美術の関心は国際的に重要な物だと思いました。この経験は自分の将来の研究に役立つだけでなく、世界の日本美術資料専門家とのコラボレーションによって日本美術の促進を向ける事ができるだろうと考えています。ご覧頂きありがとうございます。

キャロリーン・ジェーン・ワグーラ

不動利益縁起絵巻
14世紀
東京国立博物館

2

繍仏– EMBROIDERED BUDDHIST IMAGES



天寿国繍帳・８世紀
橘大郎女（たちばな　の　おおいらつめ）
奈良県・中宮寺

當麻曼荼羅・８世紀
中将姫 (伝説上の人物)
奈良県・當麻寺

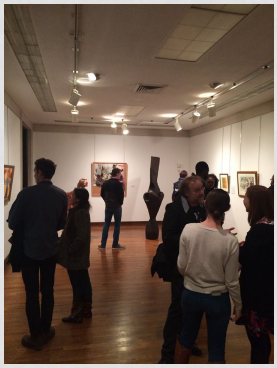
3

種子＝Sanskrit

北条政子が頼朝の追善供養するために制作した作品 1200.1.13

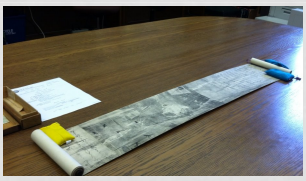
髪繍法華曼荼羅図
静岡・伊豆山神社

4



ピッツバーグ大学ギャラリー

国際文化への関心を深めることを目的として学部生を指導する



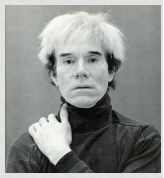
模写絵巻物

5

Andrew Carnegie (1835-1919)

Henry Clay Frick (1849-1919)

Andrew Mellon (1855-1937)



Andy Warhol (1928-1987)

6

キャロリーン・ジェーン・ワグーラ

カーネギー美術館

7

2013
CARNEGIE
INTERNATIONAL

Tezuka Architects (手塚貴晴＋手塚由比)

8

アンディ・ウォーホル美術館

9

10

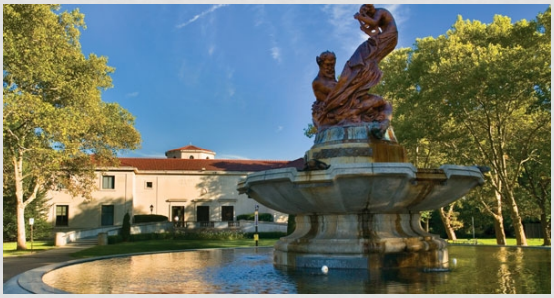
THE FRICK
PITTSBURGH

11

ピッツバーグ大学
学部生　2万5千人
大学院生　1万人

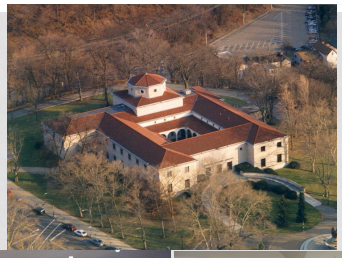
12

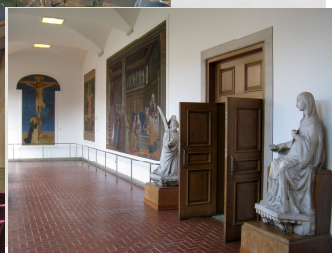
キャロリーン・ジェーン・ワグーラ

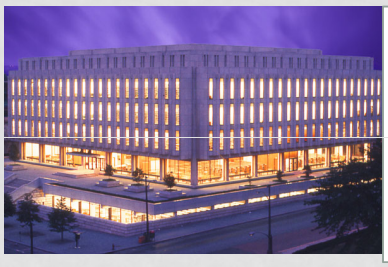


Frick Fine Arts Building
美術史・建築史学部

13







特別コレクション　２０点
(African-American Collection, Eduardo Lozano Latin American Collection, Map Collection, Media Resources, Nesbitt Collection of Children's Literature etc:)

パソコン　２００台

スタディー・スペース　１５００件

ヒルマン・ライブラリー

15

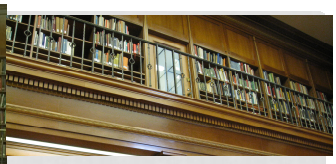
匹茲堡大學東亞圖書館

University of Pittsburgh East Asian Library

- １９６０年に国家防衛教育法 National Defense Education Act (NDEA) によって開館
- 1965年から日本に関する資料を収集
- 2000年に韓国コレクションを設立
- アメリカで14番目に大きい東アジアコレクション

日本経済史、言語学、教育学、医学史、近代文学、日本映画の歴史と文化、中世美術史、中世宗教史

16



フリック美術図書館

18

ヒルマン・ライブラリー１階

東アジア図書館

ご覧頂きありがとうございました